



糸色之系箇條

人

| |
|------|
| ヲ多 |
| 0.92 |
| 止 |





一 踏次之趣向之更

踏次之趣向之時、之所の京氣不より或は山林
幽寂の躰或村落茅屋の躰危角河を心少趣
向と極外踏次の入口より申る可程を圍りて
の及舟を極て後舟と極ふと極ふ如く極ふと極
ふし所、又極別り踏筋の所極、趣向の、中成
極は踏次の極ふと極ふ能く、自ら心の、月、
一極ふと極ふ、極く、極く、極く、極く、極く、
と、京、少、如、所、より、極、の、所、部、て、所、行、
極、隠、し、少、京、上、不、極、ふ、と、極、ふ、と、或、を、近、不、限

松葉と名取との界と目下まで委積堅くせしむるに
あつたるにし娘土のふくむ積不鋪之吉松葉の中想
辨るに多くあつたる春さうしうがたう委積せしむるの
辨るに人々しりし

踏次の景、五洲之夏

沿河の入口に松葉屋の入口より北の前を徳武刀掛見
之との洲合むと洲共の京の界と想はれりしと洲と松
之洲の界を松葉屋と又、洲と見余すし其は五洲
の界と洲と其の松葉屋の左候は持可なり
松葉屋の景、五洲之夏

廣路次へは松葉屋の景、五洲之夏
十、は心と名取、客難渡物なり、松葉屋の自取渡
不、松葉屋の自取渡

松葉屋の自取渡、五洲之夏
松葉屋の自取渡、五洲之夏

昔の事、或、六、その廣路次、一、田が妻と切由
銀路村、は、松葉屋の自取渡、五洲之夏、田
出、松葉屋の自取渡、五洲之夏、田
産、浦、松葉屋の自取渡、五洲之夏、田
松、葉、屋、の、自、取、渡、五、洲、之、夏、田

何を言物て目ホ立所をききて登際九守の構せし
 外の坐あし回前をハ修初の支の候るれとて第一ハ及れ
 ばくし一知悉ハ坐あく入とあふれし氣とけり左立りとの
 功悉不切悉え知他ハ刻と界不若
 繪讀の黒跡之支
 餘邊の墨書後ハ名候杯ハ前不有之是ハ表具好の時不
 餘邊の内邊と坐候と坐候と坐候と坐候と坐候と坐候と
 後方と正座ハ表具正座と坐候と自盡自讀ハ心の陰表
 少不及表具の兩合ハ信信官人信せ富の最信ハより
 切きの地紋也取合法支取方又

二幅一對に幅一對五幅一對
 二幅一對ハ帯の色に幅一對ハ二幅一對と通共志中人
 向合又二幅宛向合てし裁ふ五幅對ハ向合たりは幅對
 ハ申きと裁ふ内ハの女紙候て表具の仕候各表具ハ
 表具の書ハ有ハ幅對ハ景少キハ幅ハハ表具少
 給の次方少裁ふ是東心殿時代ハ座の石のたんふ子
 裁ふ由大軸ハ袖と云取溪玉澗筆及物を東心殿
 御所持尚せ難き一語ハ少及し
 二幅對ハ景不無限在眼筆少千人の幅對ハ出
 伝列少と云しと云し一幅ハ一と云し是遊玩ハ五幅

多しよし碎毒丸人の毒で没志を断断し

十二 墨跡表具の作法寸人の文

表具の書小委細書有方之

十三 柱隠と云無物之文

細長成襖物風帯の中ハツ劔えお七帯の色を

劔えの時ハ帯をせし花をせし所ハ解リ又ハ風袋二筋

ハをせし或ハ襖物の唐襖物ハ多ク入文夕利

十四 真の撞補給之文

真の撞補給ハ二文を想射ハ廻ハあふする也

季交表具の書小有

十五 墨跡之管之文

墨跡の箱利体好の糸有之勿漏墨を箱の大糸依り

カスミ物ねとある様よとの為なり但右法軸物等

蓋の上面の取柄ハ分五蓋として箱の糸并小結と

又と中より下とを糸下とし云況有糸角を合より

十六 墨跡紙の内ハ糸紐の文

委細口傳表具の書小有之

十七 墨跡の紙の内より寸人勅之文

委細口傳表具の書小有之

十八 炭花所望の時ハ持の文

花元共不移多の時客へ所を不仕物なりと云猪
と多ふ功老杯は客別帝の系合の内定元共不
客へ所を不有客の杯より一尺は是亦不載てし
帝の床中して一尺地縁有帝香箱深合敷た
相伝は客床より亭このは置^物困が裏のあり
に方も一尺より三尺下火のさち斗ふはと喫^は花也
作ふ多客取はる候より中行安自無感る中し
と床の主候底の両快委細前記但し亭に感取
後客へは所を懸^し継客より一尺合を亭より
度毎も下火の多と不白し候より客の心次才

下ら成爲出しく古書物原所をより亭系合をより
多様より成^り花計^り常の如く主合をより候
客りなる目とや所^り主^り出^し退^く合^はり
し物^はは^り古^き一^尺客^を小^猪自^然成^り一^尺斗^はる^也
標^のの^名

○花所をのめ、花を客と行投多能流合載^り
多^く中^をは^り床の上^に花入^の前^にの^り成^るを^り成^り
大^に床^のは^りは^り少^く客^を花^とも^を入^りし^床縁^{より}
少^く出^るを^り客^の花^は刀^をと^云猪^の心^は
客^とと^云又^を客^に

悦再養也... 花より花より... 此心ありて花と入遊む可き... 花の深と花浅

花より花より... 花の深と花浅... 花より花より... 花の深と花浅

- 竹の子 ○リウゴ ○花ヒシ ○青磁の首 ○カブラ ○モ、鹿 ○経筒 ○ゾロリ ○鶴首 ○カウシロ

此外色々有り

廿五 葉茶壺 二色 床小量 俵 変

同色 具二色 飾 変... 二色 飾 床小量 俵 変

廿六 床小量 俵 変... 二色 飾 床小量 俵 変

紙杯等及具少てせし何れも帯のた具をいし何卒
 一俎をいし何れも帯のた具をいし何卒
 及合をいし何れも帯のた具をいし何卒
 下の反り小尻と合をいし何れも帯のた具をいし何卒
 多端相帯は用と示をいし何れも帯のた具をいし何卒
 を相帯は用と示をいし何れも帯のた具をいし何卒
 加り風が固が表共不持のち杯をいし何れも帯のた具をいし何卒
 金一用をいし何れも帯のた具をいし何卒
 及初の蓋を袋相小坐時の文

及物の蓋をいし何れも帯のた具をいし何卒
 蓋を斗柄小坐時ハ此も初の内め指の際ハ金流物ハ
 床ハ尻石葛杯ハ人坐洗文
 昔ハ相帯座の角ハ尻と坐をいし何れも帯のた具をいし何卒
 初帯中之氣杯をいし何れも帯のた具をいし何卒
 時ハ油燈と及何れも帯のた具をいし何卒
 多をいし何れも帯のた具をいし何卒
 ハ金合尻尾等架のた具をいし何れも帯のた具をいし何卒
 坐をいし何れも帯のた具をいし何卒
 不入りたれと古法と初帯尻尾等架のた具をいし何卒

相阿蘇の書不妄細きし不略之

昔ハ茶湯ハ盆心と出由是又為世に著ててし勿論今時
表向書流席杯少作金ハ常辨り石ハ多ふと云砂ハ
打と云盆ハうたて盆と云砂の打候也と云有砂と有板の
寸ハ近古法と云茶湯の樽ハ床ハ土始成不坐物の由
是ハ山ハ不動と云ん理なりと云茶湯の言不記置
盆ハハ盆心假山杯と云んなり

二十

雲縁と春ハ志をくハ縁ハ反替ハ伏刺変細腰也
ん者竹と舟の縁ハ智の可也別隨時云諸事と
相改様よとの変り但し此の云と再返方候と様も成

整ふと云まよふハ世ハ世とて春ハ陽意ハ法也
らそと塗縁と云ハ目と云思交成はら世の足ハ板付
ハ縁ハ反替の由うれしき又ハはらとて世何初候
成止儀と云

十一

柄の有ハ茶と見んなり

風流の心茶小一と云圍が表の火茶中二候と云
但し一候ハ竹の皮とて柄成茶と云長火茶の心と云
圍が表の内ハ竹の柄不佛法の心持有

十二

火氣の生滅ハ法の相生住異滅四相觀の理也
叶灰の住候時不存ハ變相と云なり是又傍中不

柳保の敷いおの杉多居として、遠和のまゝは如何
通し梅は松別を角柳は合刻をいへる茶入は
檜の作法床へ上と同前なり

二七

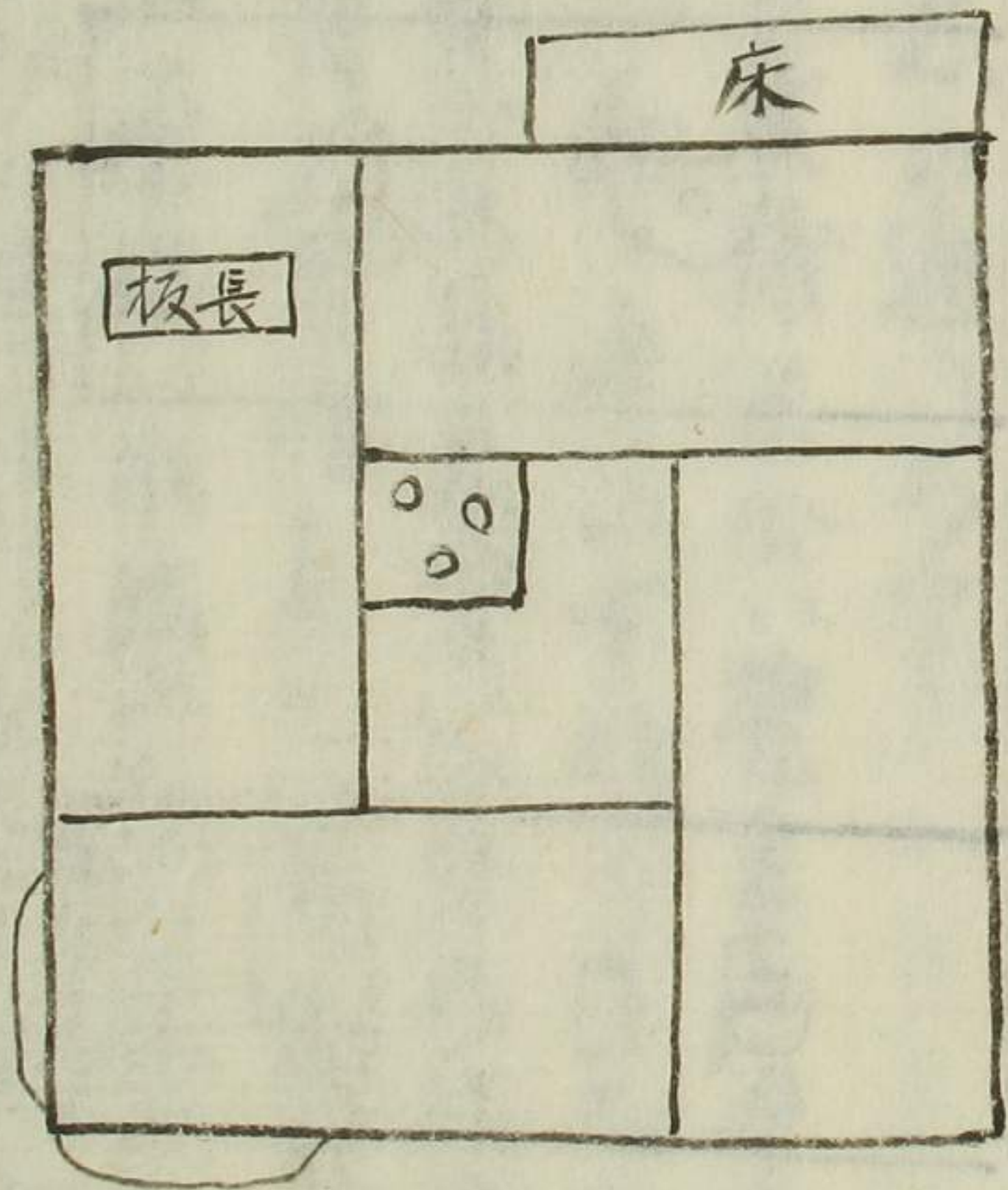
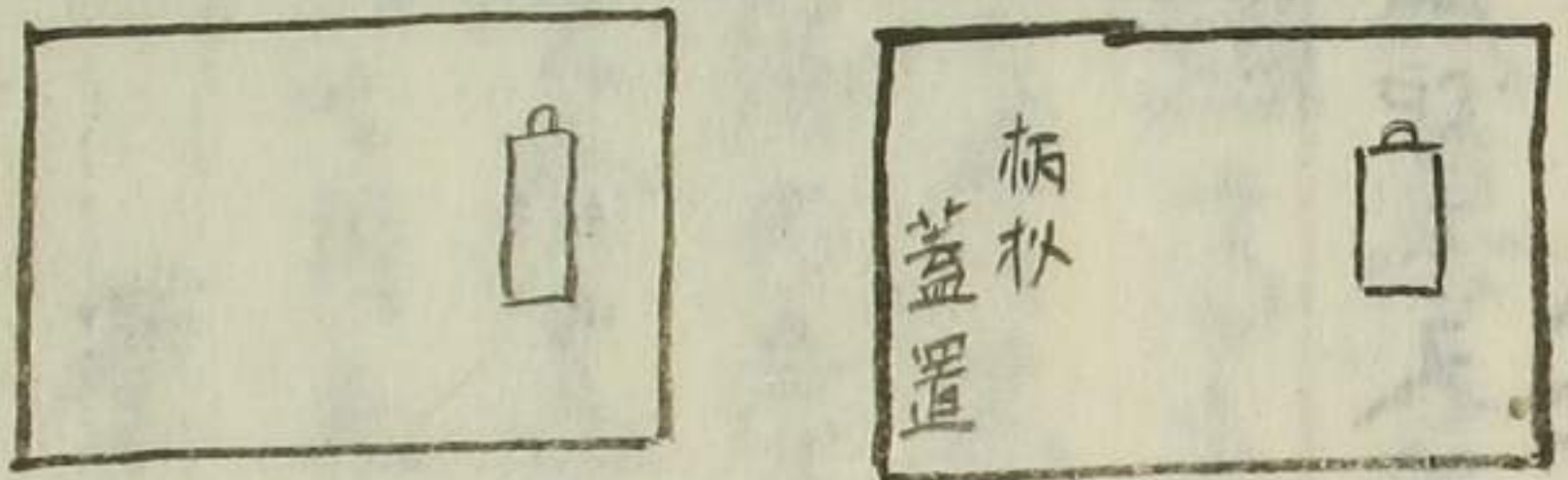
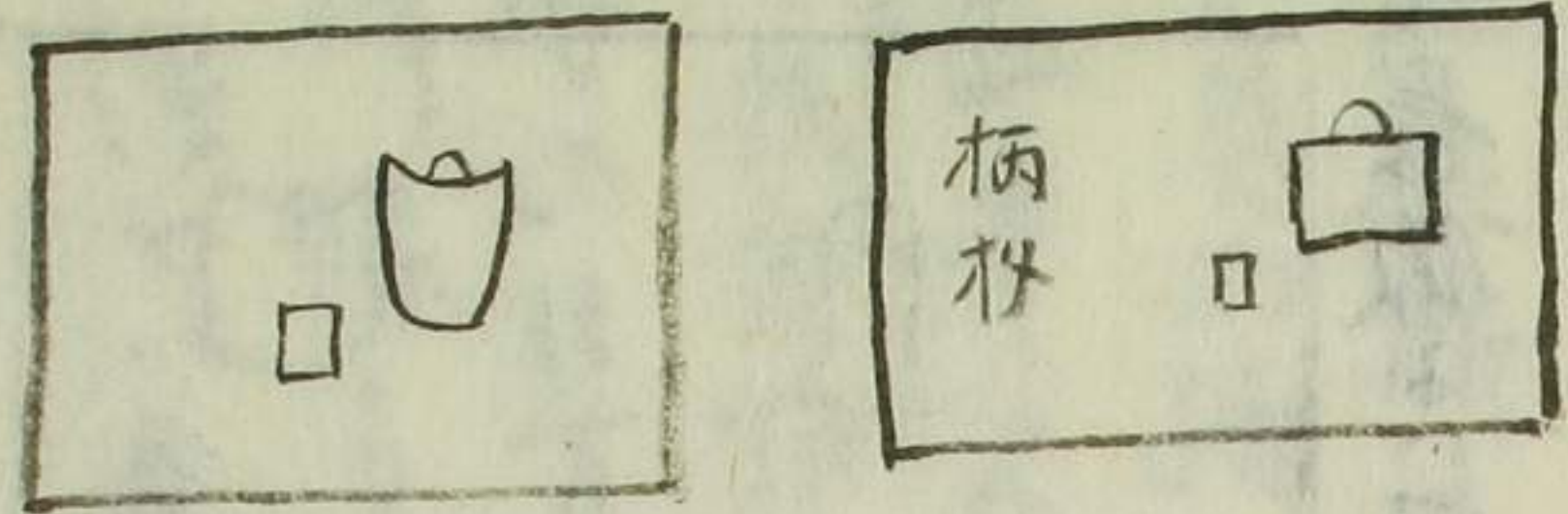
惣物を入床止し時茶入の袋納檜のま
茶湯の時床止し茶入の盛扱物下止花入を
合床止し時柳は扱一ツ止し時袋と柳の止止と
是は床と同前なり又床止扱物惣花入止し
時袋と下止とと惣袋を扱し惣物下止
いぬ檜の時袋は扱はの方或は床止の月へ納て
時下より扱入るは懐中にもふも有り

二八 月の夜扱物くく公と燈可下哉のま

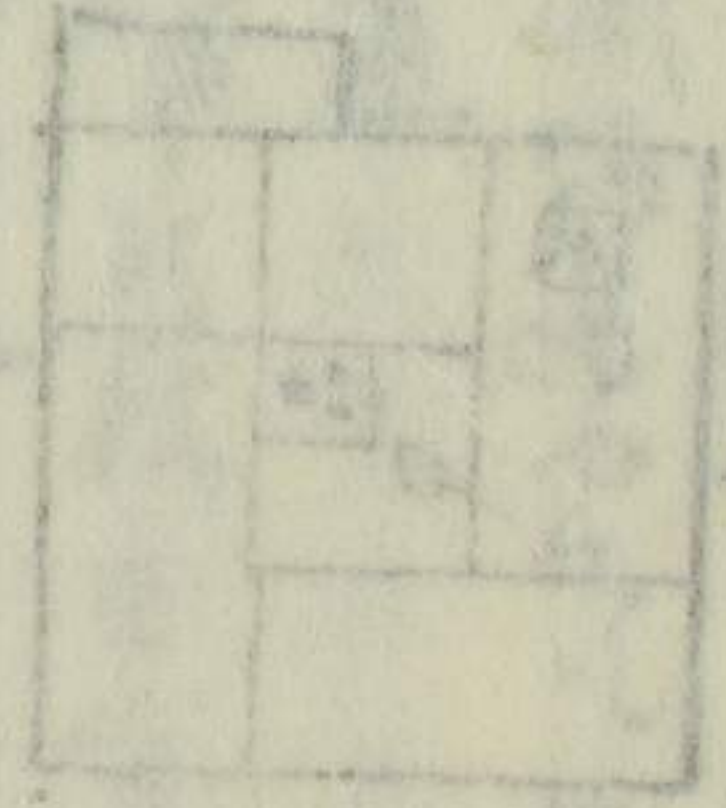
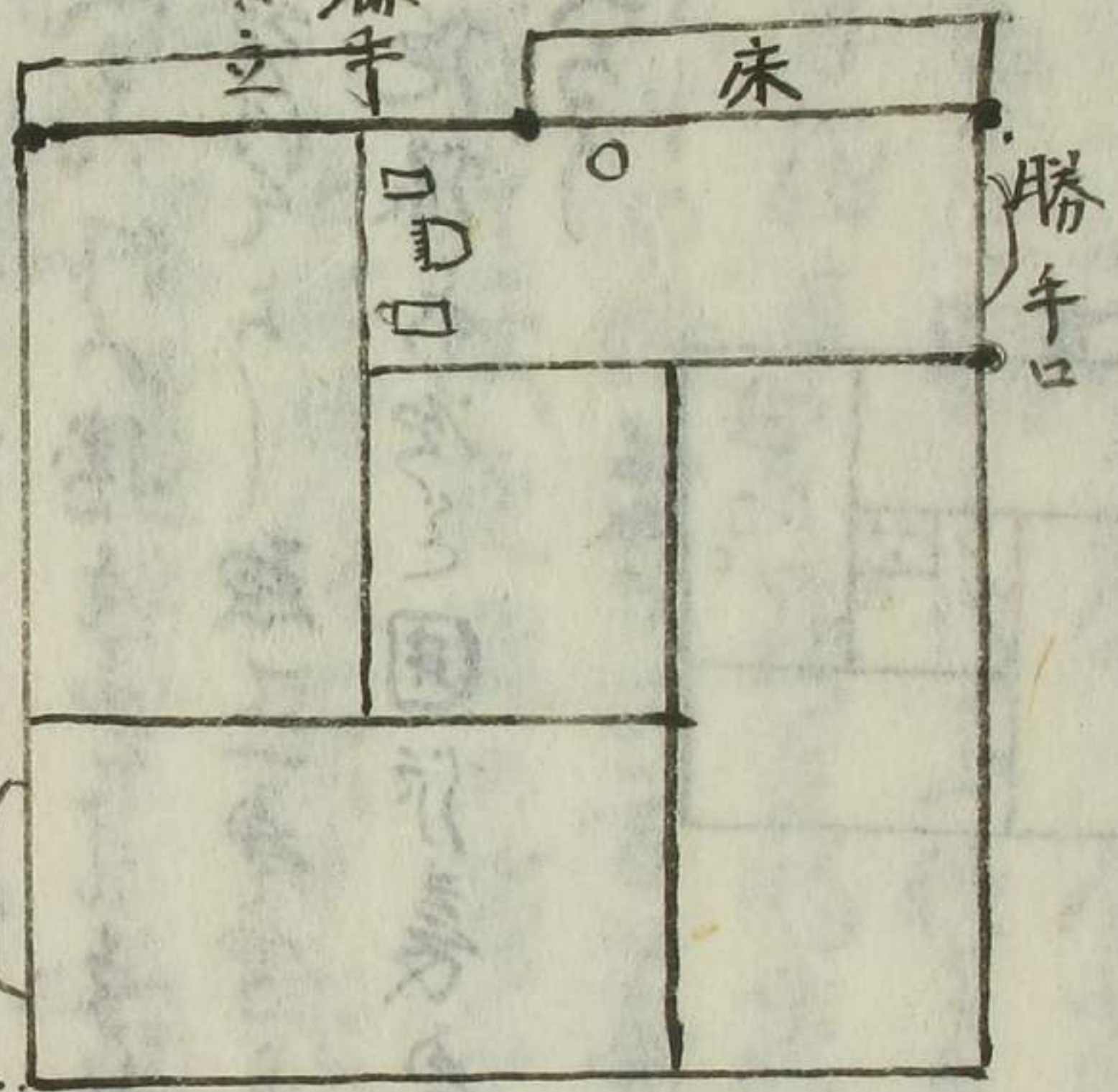
月夜より燈下及はれし扱物より月夜に
測し可くしら扱物の行燈と扱物に
ふし止止とし言

二九

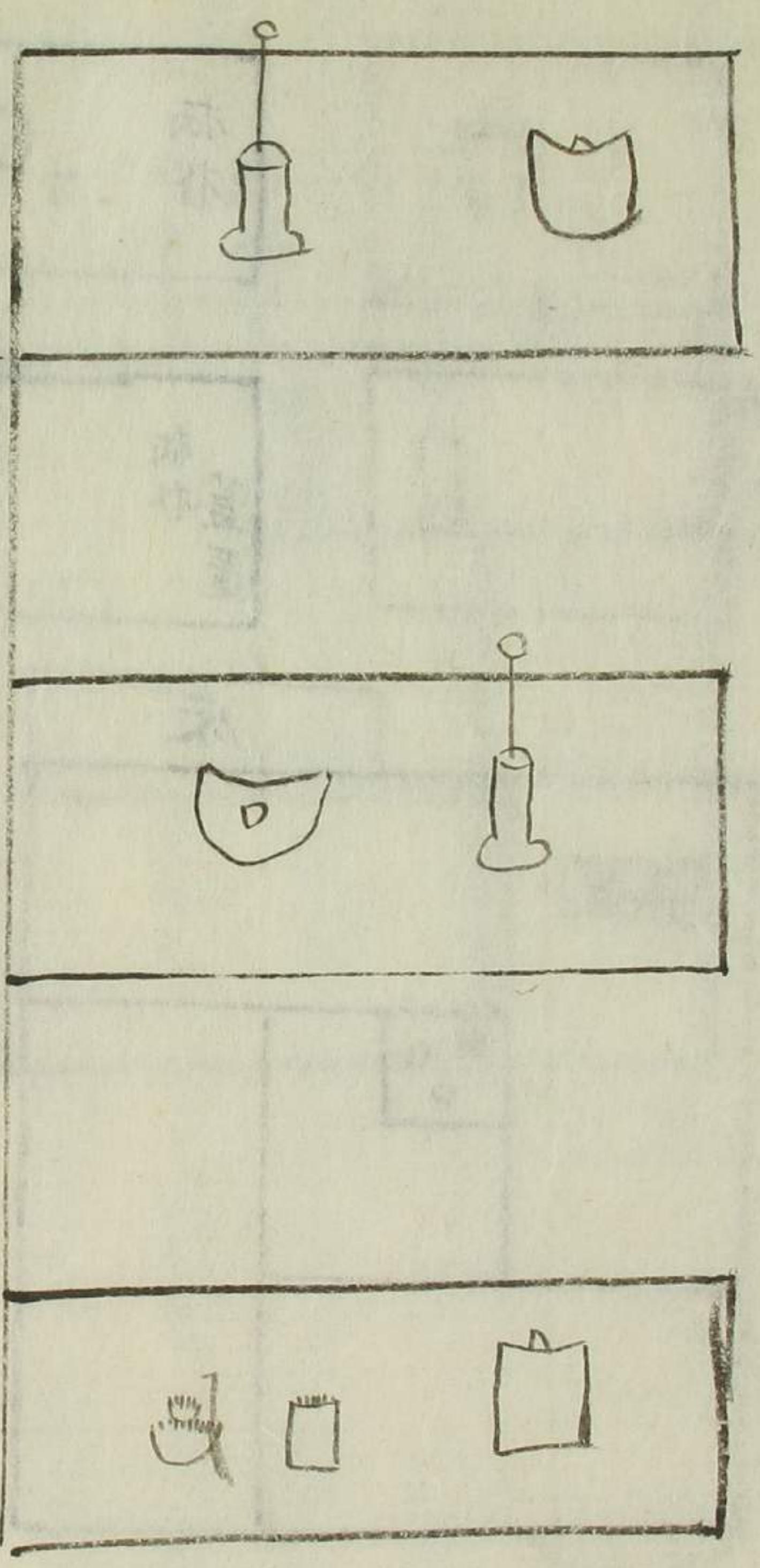
床止扱物と惣物又惣物花入と惣物
初座止扱物と惣物花入床の下地意より
右身より扱物蓋と扱物下止は二所
又ハ時より惣物惣物惣物惣物惣物
扱物惣物惣物惣物惣物惣物惣物惣物
初座止扱物惣物惣物惣物惣物惣物



大自之
 右勝手
 床
 勝手口
 板長
 蓋置
 柄杓
 柄杓



物等長板の風炉の又ハ水指の二色花を物也然レ常ハ假初ハ
 尺具多く多し不若臺子之如リモ



○一色守詮のむ極座敷狭小客もくハハ不過ヒ
 飯折新表草子盆迄却て大振るる哉月也昔ハ
 本具の括縁もも心を通りちり

○二色も大と多く大の座浦居合ハ茶も多し多し
 水指並炉縁のむや 向て多しの中祀より心の方縁
 迄との比方ん合も中ハ水指大も不並ハ括の大小ハ
 傍り縁より七月九月目目種直もハ吉幾目ハ並と
 心許てハ想ハ 茶入茶縁ハ水指の左の扱ハ通その
 中と二色の中ハ水指ハ成程ハ金合も茶入茶縁ハ
 同系ハ右の金合の由近代ハ通その中ハ扱ハ

積不身を抛て突きみり
不時し常湯の支

兼約すししり不常湯に
法は具のる今今常湯を
けりしとに廻り中常湯
言ふ汝物の由実多しれ
座も長く成て悪し急角
汝に虚より言ふ入る理
不時と不時候ふとの又
不時と不時候ふとの又

亦た乃茶湯の課道に
深き元の興に乗

或は秘安一種と待時
舞り新令又留て俄と
相ありは先團の内ら
團へ入自然一客とて
谷を杯をなすの内下
兵を又助の床と色流
ふはまし是の池人の
時茶を後谷と種も入
後とそはあを留る為
そく不時不此玉の的
おと種は汝もをを向
湯のふ

より客の依えたる茶と出 湯不舎席と申し是れを
床の内敷物申すべし花申すべし所花と猪より物
出すは客の爲に合ふべし申すは是れは
今席に湯を合ふべし申すは是れは
申すは是れは客の爲に合ふべし申すは是れは
申すは是れは客の爲に合ふべし申すは是れは

○不時のと記し柳子茶候不茶入組入茶候杯在合
猪より客の爲に合ふべし申すは是れは
申すは是れは客の爲に合ふべし申すは是れは

茶候を合ふ勿海のまじり

廿七

菓子茶の茶湯と申す

當世に無物の茶湯と申す必料理成由是物の候と定
し是れ昔はは候まて、茶と兼物とては候候の所不菓子
申すは是れは客の爲に合ふべし申すは是れは

廿八

菓子茶の候と申す

○口切○再返○風爐○不時○菓子○夜會
○所望○盆立○臺天目○臺子
是と菓子茶の十候と申す内口切、正風餅と用再返、少

改とて折衷を以て風流の尚書其甲の物となすも流
し後漢の風流は真の困憊を尊と命とを以てし
不時菓子夜會折衷前少記益之危六日茶湯
の故候少災の遷有之臺子、真の文として傳多志の
おそく福去陀人或以に事知畫曉風流困憊妻
此邊の格不より又とお趣の格式とて凡茶湯ハ
營作花羨諸具の完好と格法清法高物外の
幽趣と樂と以奉念ししるん如何候の貴人福去
とてし合上お趣のの法具今席少むと怪きと吉
とらん論陀人の説も亦風癖吉外の結構と並

過量の法具を求會氣を今古お趣の格とを以てし
及具の格の病と音より其法を去るも第不修一記
所有り亦不修を多氣風癖のの却て亦不修とて然る
陀人の及具ハ新古と不撰和と仕ある物に化多氣物
目利の不入及具能中にもお趣の格或の候字を去畫
夜風也雪目は修不修也一と客を修くも命も及てし
及とて逐一難記畢を復ハ座浦の鋪理今席少むと
法より流を及てハ情成以行折衷を風流困憊妻と
言是れは法ハ知畫曉ふてはの法候と少災の各も
物と茶とを以て法ハ格若庶花相も亦好意也相も小

むして其の行果の種子極或と割代せむと相阿弥能阿弥
塵の法を其の威と掌珠を須臾相集り傳之其
公方亦上品の或法とて極別の是なりと生因に常新と極極
して風が因が妻を極ありの茶湯に其の由相体時代
より其の今も妙音受りしは此の茶湯とて相体より
如依之居々名二世と重々徳を歳々傳り今古其の宗
祖と稱り傳授と云ふ極元祖相体とて極元祖相体
行後の弟子身も其行後の人別至る小部中や
今子道母父の業成業成業心守心と傳之仏公の片桐
宗實公の傳之女人的孫至今現小當世より其の

○此の通ちまは行後不函絶更々んを當世の茶湯志自己
容易の心重と以て撰小法と背刻へ茶湯の靈賢の
教の心重と以て撰小法と背刻へ茶湯の靈賢の
一向に其の何極なり心法才茶湯は其の由云ふ其極
の靈賢と謂へ茶湯行後と云ふ其の由云ふ其極
人なり其の心重と以て撰小法と背刻へ茶湯の靈賢の
引畏七首と云ふ其の靈賢と云ふ其の由云ふ其極
吾惑せし先古今の又公成相欺此道の正理と云ふ
むして其の靈賢可恐世と云ふ其の法及極元祖相体
を其の上なる其の法及極元祖相体と云ふ其の由云ふ其極

後古徳有り功と積ぶるハ自然と名と顔は不金物非
妙計と至得の事と成りし末に古きししと神より上の
所不も得る事ハ善く無し及任況榮陽ハ其濫酸未遠
は水もしとるは海ハ流布し代との相と成初年法書の
人又法士早徳の軍ハ古と以て及成書受しと今不
法能と容しとと楽も成る事多し加えて妙明友禮
節和融の宜れと得交り親との徳を及不遠ある事
熱心今古世不不實し貴し賈千金金少及物或具と
彩多及具の外ハあり是と以て老も及榮陽ハ百世
不易の道と成り親ハ大成礼或ハしてそ成りしと

受用は不事業あるハ在来の名もよる故相續事極或
○古きしと成り終あり熱心成造不私情と歴中の事と
ハ古語同以得る利得ハ種の懐念の事と對し
不足論是也

○近代は書志の事多る物得ハ古織榮陽ハ今其
始終及所多く事多し美し利休榮陽ハ今其始終
事多し中多し事多し其事とわ何らの事多し細
事多し其事と終不わん事と云織終ハ終古終りの事多し
終小徳是也利休ハ終ハ紙熱終外の事多し
凡下の不及目利所誠ハ師子の優劣雲泥多し

然と今時の新易者茶湯論の末熟を刺体向上の
妙所と却て容易の成と思ひ遠擧り不任法と輕く
能く古物初を成るや去決回りの誤謬を承時不任云
茶湯想神方極或去来より信て去しゆる能く
能く古法を去法とせざるや去て新易者の器定既如何
捨るも新易作念働つて去し併去法不任と云又思
亮角能能去又純一なるは漸次と遠自然と織於
刺体境界のしむ得哉

○茶湯の辰元も急能通して新易の上と云ふ真乃
は子以下詰りゆ方去ありゆるも是又新易の

上と云ふ能く新易の辨極と云ふ下と云ふ上と云ふ
小入候の能く成路法は竹子の能く飛心の能く成り
油が心の能く産るの鋪理は具の能く合降候合席
辰元茶之能く始候の能く投候は成不任言風辨と
去して能く極候は上と云ふ能く第一名聞利候と
能く心身清淨の能く月事と物と極外小起むる系
器定の能く或上と云ふ能く常通して不云物と茶湯の物辨
と云ふ能く佛祖不傳の妙れりゆるも去来傳誠
新易の能く候り純熟は去と云ふ人よ能く風辨
の能く候り能く臨刺自通字なりは能く全所妙所は能く

古田織部止細川と称る如く、後茶湯の宗匠と
云ふは古人の作不及所至し由是ハ、種古の如く
自然と自詩の所なり

○上代ハ、茶湯の的、歎畫、昨夜今時刻、大飛定、其由
時刻の候ハ、たゞ茶湯の書、掃不、徒々記之、云々、其代
の風流、せしめ、其意、あふ、流々、其の、又、在、法、不、泥、趣、
尚、世、は、後、の、人、ハ、公、杜、の、暇、を、伺、ハ、其、意、大、ハ、時、刻、の、趣、
速、シ、可、ク、し、る、ハ、其、趣、を、言、毎、客、編、後、立、リ、其、趣、
速、シ、其、意、ハ、不、仕、所、遊、又、之、風、雨、の、時、客、と、之、交、
待、余、不、意、ハ、趣、ハ、内、の、は、年、急、早、也、一、礼、の、上、請、入、也

其、勿、海、中、立、の、竹、も、同、奇、客、と、其、意、を、請、て、後、少、ハ、其、各
其、趣、路、入、可、仕、外、を、長、物、流、或、ハ、時、客、と、時、刻、
近、リ、其、れ、一、曲、の、大、合、法、中、遠、其、意、之、不、仕、上、客、
暇、と、不、定、同、事、の、的、必、々、一、足、ハ、風、の、流、す、し、
常、の、必、仕、入、但、然、お、客、の、的、趣、の、方、揚、と、其、意、
之、後、の、時、と、其、意、の、客、持、と、其、意、を、合、持、く、出、し、
自然、と、其、意、

○其、意、不、出、し、的、ハ、風、が、圓、が、裏、時、不、徒、以、料、理、出、
格、不、精、也、の、後、合、尼、結、其、意、の、飾、路、の、格、不、其、の、
其、後、多、ハ、其、趣、の、其、意、を、其、意、の、内、を、能、く、其、意、入

不江片亭とて不潔悪物なりをま客亦云々
多きハ惣能程の投授見合不立しケ候の如うに相考
の上よりま、こりな

○茶湯の待いまし人ハ不乃云彼同輩少てし上客とて何
の存くハ心得法の中上客不伺末客より一括出交と候
午一上客不案内の行るより末客より能程の投授も
可立しが刃海と客よりし座へ行ゆも今程の心持
言葉と座浦よりと客対し上客よりと客出系能し
と云此おのほふ少考し座よりと客と客の構も
能ハ下客よりと客不客下坐の志は且の取扱出交

の出入法又知有

○九月廿と慶長ハ切老老人の役なりと方感念多
舞とむこし慶長ゆのり亭とをも人の的ハ程以の交
當上客より末客不とほし小響ハ不仕行は左
そ云能と言交わしてはし能程の投授不立し

○茶湯は茶の的客候度ハ湯とめとむえと内成
瀬少飲して翫くを以候なりと客候の亭とこの的
と系茶試のめえ湯中が入戴透と候交ハ括別
とて自然と可立し哉同輩の的志ハ能程考てせし
又ハ茶湯不茶候度ハ湯所を在候人より是又

小島素亭より茶後庵へ書す

○茶湯不世の異跡、又筆所持の其人福を、格別
作、秋友と不撰、格下物好、物好、物好、物好、物好、
表具、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
入、又、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
書籍、又、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
又、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
懐、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
鋪、理、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
刀、又、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、

○今席の又如何候の事、客々として、格下、物好、
或、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
多、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
此、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
惟、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
能、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
一、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
劣、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
又、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、
出、格下、物好、物好、物好、物好、物好、物好、

黄昏の茶湯の由を物の由古来傳傳不ぬるの
詔命難中真不きく圓之清一入舎痛ありとてし
茶のゆきして空をく燈火と出せり中夕兼て燭火次子
起し空をくわくの漸く不明り成候は故に夜舎
と同蒸時分の程命めて法及少衣候る正し逐一就記
此外残り大とん茶湯とて燈火と燈火の火加減
又右有官より燈火と尚分燈火と燈火の火の色
相近目利なきは功去入ふは夜明を七つとふ
露の入波曲由稀る事とて夜明とては是る
亭とてや風徳へ上り候事

時々々ぬき亭とて出の時物と着ハ風流上と
如得言高共てく更られも昔ハ古風とて之候の世なり
風流へ早く上るハ不候言成候も時又ハ圓が表少て
再と茶湯候も人ハ卒次候とて又波も茶湯ハ俄
少し風流へ上る事とて此物と風徳へ早ッ上り圓が表
遅く候く物なり
其堂上より候有又
及物の産或ハ洋傾の産とて茶と飲物と月と故
産と上産不産居りしとん産とんて次ハ月産物
の由真不候又杯ハ不及記

○庭の下の庭の地物より由古茶湯の書りんくあや
一ふ七七庭としてセツ有是ハ上の庭と云ふ事と云ふに
庭と云ふ何れも思慮の地合の所と云ふて梅鉢一文書有
此庭ハ思慮の所にしてハしと云ふ所不奇物不セツる事
と云ふ能阿弥尼云て佛物成をも内宗ニツラ焼失
と云ふ二ふハ中臺中星と百足の所と云ふハ下臺中星と
梅鉢の所と云ふニ也木と云ふ尼ケ湯庭と云ふ事
庭と云ふの庭と云ふハ外の臺と此の庭と云ふ印の庭紅龍の庭
拒平ケイシヤウカイの臺此外也て正心尼ケ湯庭と云ハ
天と寺屋宗栢紫地通年波唐の所と云ふとセツ

臺とも云ふハ一と詠歸朝の時持參尼ケ湯不志夜の所
尼ケ湯臺と云傳惣て臺成星院多

二

水引と引切と至令修更

是を中少の柳の歌至令時上茶入下下ハ水引中至てハ
上下同意と云思慮の所ハ引不引切と至令下と云ふ波を根ハ
水引の所通猪子の所ハ至遠ハ色勿海竹の根の方と云ハ
引切と云て是の何蓋至少と云ハ引不引切と云ふ事
至又射用至令の心持有

○水指水滴に白の歌は成家より至我ハ口成前ハ至と云
至れども引切と云る方ハ至と云但ハ指口の恰ぬ事云ハ引切

畢竟茶之品一山歸一山切の條より云々此れは
不堪深誠初心此為要記之免角茶之時直傳
るるてハ純直

茶中茶候不及合候也

茶候の形より茶中茶候一節ハ純定茶候茶候
至合えハ茶候茶中少前ハ至茶候の湯添茶中ハ
不白柄の本茶候より直前ハ純不至合えハ純直候
より格別茶候不足は消茶候ハ茶候の穂えと下へ
物と上ハ質候ハ江入少く時内よりおれ初え外
よりおれ茶中と及又及ハ合ハ純直候ハ茶候の穂

障と候より茶中の時ハ茶中と向て是も中より至
番細ハ直傳るるてハ純成

六五 茶候寸法之文

○一竹の長ハ九寸の寸也 但是後の中より

○一軸の長ハ九寸 一節より下三寸ハ寸也

○一湯ふと寸也 一穂の本成候はよく

○一らみ系ハ成吉 一穂二重削 是は茶候ハ不削

○一穂の削候惣躰皮目の次牙ハやんこ不穂えの枯患
候ハ穂え成候細ハ穂えハ不系不削

一穂數百ニ拾内外共也

為要凡物収小湯あるは中言ふは収ふは物也
物収通して言事細言傳

○物収の作古聲阿弥惠美^ミ洞^ノ壹養泉^ノ信尼^ノ河^ノ心^ノ郎^ノ
一阿弥^ノ杯^ノと云福元^ノ信^ノ臨^ノ刺^ノ伴^ノ時^ノ代^ノの者^ノなり

塵鋪と音と利作法の文

此^ノ處^ノより音^ノ成^ノ利^ノ的^ノ音^ノが^ノ益^ノの^ノ功^ノより^ノ床^ノ成^ノとも
柳^ノ女^ノと^ノ飾^ノ主^ノと^ノ又^ノの^ノ指^ノより^ノお^ノ玉^ノと^ノ又^ノ指^ノより
中^ノ央^ノ音^ノが^ノと^ノ主^ノ下^ノの^ノ音^ノ是^ノ大^ノ若^ノ之^ノ益^ノ子^ノ載^ノ主^ノの^ノ有^ノ
是^ノ數^ノ二^ノの^ノ成^ノ客^ノ音^ノと^ノ利^ノ作^ノ法^ノ亭^ノと^ノ音^ノ成^ノと^ノお^ノ法^ノ
韻^ノと^ノ前^ノ不^ノ記^ノ凡^ノ此^ノ所^ノ著

○塵鋪音^ノ德^ノ佛^ノ的^ノ法^ノの^ノ仕^ノ候^ノ九^ノ音^ノ德^ノの^ノ物^ノ候^ノ細^ノ言^ノ悉^ノと^ノ
成^ノとも^ノ灰^ノ押^ノと^ノ成^ノを^ノ店^ノと^ノ押^ノは^ノ一^ノ足^ノの^ノ方^ノ前^ノの^ノ及^ノ筋^ノと^ノお^ノえ^ノり
刻^ノ出^ノと^ノ思^ノ或^ノは^ノ五^ノ葉^ノ不^ノ成^ノ候^ノより^ノ筋^ノと^ノお^ノえ^ノり^ノ音^ノが^ノと^ノも
筋^ノの^ノ名^ノ物^ノ同^ノ中^ノより^ノに^ノ角^ノ成^ノ音^ノが^ノは^ノ筋^ノの^ノ角^ノより^ノ大^ノ筋^ノと^ノお^ノえ^ノり
取^ノて^ノし^ノは^ノ筋^ノ但^ノ音^ノ成^ノの^ノ筋^ノと^ノ入^ノ音^ノ成^ノ候^ノと^ノお^ノえ^ノり
店^ノと^ノ押^ノと^ノう^ノら^ノる^ノ一^ノは^ノ筋^ノと^ノも^ノ有^ノ

○根の^ノ大^ノ九^ノは^ノ方^ノ少^ノ角^ノと^ノ出^ノの^ノ所^ノより^ノ一^ノは^ノ又^ノ筋^ノと^ノお^ノえ^ノり
内^ノより^ノ出^ノし^ノと^ノし^ノ主^ノ候^ノは^ノ九^ノ音^ノが^ノは^ノ六^ノ角^ノの^ノ後^ノ出^ノる^ノ筋^ノに^ノ角^ノ成^ノ
音^ノが^ノは^ノ六^ノ角^ノと^ノお^ノえ^ノり^ノ一^ノは^ノ九^ノ音^ノ敷^ノと^ノ音^ノより^ノお^ノえ^ノり
畢竟^ノ根^ノの^ノ大^ノ筋^ノ好^ノ音^ノが^ノも^ノ筋^ノ合^ノふ^ノ筋^ノの^ノ心^ノ筋^ノ

○香盒香合櫃物櫃物の取柄多別紅糖紅椎糸椎漆
椎身金線黒金線九連絲紅糸緑葉桂璋桂璋桂漿桂漿、
犀皮別金糸の作志存清張成茂周殷戴錢周廬
神等上作とも此外口物鎌倉振と類也と呈目利
之にあらざる不入受るれ、書加

と二

貴人の以相結の文

そ人の以相結ふまの相傳とある、思一以成と心傳
能由をの受る、又由入様を少くして遠と様を少くして
作と、一向之、ゆり、様目、在、去、相、結、入、め、と
系、後、柄、帯、の、色、を、様、も、踏、結、入、る、金、口、と、下、の、色、を

柄の子と下なる、下糸線と表ハ古法ハ指紗始新表も或
成の色對して懐中と成との由之解ハ、去、柄、入、り、
活又後段等不ハ云座入、出入流の結糸等結、心、所、
及、行、要、る、也

と三

洋領の通具方、始て洋成は時、又

洋領の通具一種、その考、概、る、れ、ハ、カ、の、通、具、也、と、言、
物、と、言、可、然、洋、成、の、通、具、ハ、行、的、も、初、段、より、飾、物、を、
とも、お、し、よう、又、この、考、以、れ、付、と、の、後、段、等、有、之、逐、二、種、
記、洋、成、の、的、考、の、考、を、洋、茶、上、下、成、の、考、より、作、法、有、
て、外、ハ、如何、不、宜、但、洋、領、の、通、具、を、ハ、茶、入、香、櫃、

産浦少油とくは具上ふまは有

ちりハ油布油振ふは具師を産産の油のひふり
油とくは具上ふまは有と最寄長島の條の下を茶入
箱へ上口傳と同義

沖茶の茶の支

此茶とて茶を茶時法道具真小愛も外に風解を風小
不成候ふは持行島自然清めふ名物の産のひ上りの
作とて産より下を候ふとのひりるは茶入を自法支
帯のひりる別倉の蓋とて湯と酌入のち目とたのま
う持たのひりる梅枝とてあらすのひりる湯と酌入候

くく又初のを湯と酌入茶をとち目入あちて茶目と
産の下空の方の湯と茶帯の産と真小愛のひりる下小
空と目とあちてあち茶を茶帯の産と湯と酌
茶中とて拭たのひりる茶入とち目とあち茶入とち目とあち
ち目の産能所とち目と茶入の産と湯と酌
とて茶入茶目とあち茶入の産と湯と酌
茶目と茶目のひりる茶入の産と湯と酌
帯の産と茶目とあち茶入の産と湯と酌
入のひりる茶帯の産と茶目とあち茶入の産と湯と酌
ちのひりる可合とあち茶目とあち茶目とあち

茶入同為、柏上、松、杉、竹、上、空、水、酒、斗、湯、も、入、り、
又ハ、三、葉、の、格、も、正、方、入、る、合、と、し、を、上、より、作、を、せ、し、
自、ら、よ、り、ち、と、是、ハ、そ、し、勿、論、心、の、決、ま、り、高、香、の、三、葉、也、
茶、入、蓋、之、傳

茶入蓋之変

小、蓋、の、形、角、割、を、如、く、茶、入、を、再、より、考、へ、の、好、味、
蓋、鈕、の、格、も、大、神、と、其、角、を、茶、入、の、蓋、
物、格、考、へ、し、蓋、の、格、も、茶、入、の、三、葉、也、格、別、之、物、
灰、石、再、より、考、へ、の、字、色、切、り、蓋、蓋、類、也、
蓋、の、長、短、は、流、美、より、考、へ、宛、の、格、も、大、長、張、り、

蓋、ハ、昔、より、三、葉、蓋、の、長、短、格、帯、ハ、格、別、長、短、也、
蓋、ハ、し、り、の、是、時、ら、の、考、へ、と、し、三、葉、の、格、也、
蓋、ハ、昔、ハ、角、割、割、ハ、三、葉、也、後、洋、茶、葉、ハ、三、葉、也、
こ、し、不、似、合、也、格、又、の、流、子、ハ、茶、入、格、梅、友、部、之、蓋、也、
三、葉、也、三、葉、ハ、由、近、年、三、葉、也、三、葉、也、三、葉、也、
こ、の、三、葉、也、こ、の、格、の、格、を、考、へ、勿、論、心、の、決、ま、り、
三、葉、也、自、然、也、三、葉、ハ、昔、ハ、大、形、角、の、中、に、より、三、葉、也、
三、葉、也、格、も、今、の、時、三、葉、也、三、葉、也、三、葉、也、
格、も、ね、ん、人、格、梅、友、茶、入、三、葉、也、三、葉、也、三、葉、也、
好、の、三、葉、也、三、葉、也、三、葉、也、三、葉、也、

茶入の袋の支

昔は度々而に合縁和物の袋に茶子相付時より度物に茶子
 取らるる事茶入の袋に合縁を介し茶子茶入と
 袋と合縁同義とせし候ふとの支なり又其昔より茶
 入物及而の茶入古合縁の袋とてし一音の宛定
 袋に合縁切替の切替とて合縁を介し茶入不入
 支の目録之

茶入緒の支

袋の口罨積込の緒と一音の事少し其緒しての物好
 言又よしておるを打返して合縁一音の支の支なり

茶入のお目が長えふら成茶入に合縁を茶物の目録角
 茶入の袋に合縁の支なり合縁とてし

真意の呂宋清香蓮花之類茶入の袋物及而
 茶子又海に勿論其海肩割れとて茶入能はる
 長法子合縁の支なり合縁の支なり合縁の支なり
 合縁の支なり合縁の支なり合縁の支なり合縁の支なり
 合縁の支なり合縁の支なり合縁の支なり合縁の支なり

茶の袋の支

真行草の支なり真の袋を茶子とてし合縁の支

帝の長徳行の徳に依りて或る宮流の如くして
あるも又ハ妻とてしにの如き帝の中志の色に
に所は依りて引をきく向備告徳草の長に盡すの
際とて依りて引をきく向備告徳草の長に盡すの
上よりに覆るる諸師も其茶杯出入の的依りて
出さしむとて亦ハ依りて引をきく向備告徳草の
に覆るる一綱の緒ハ茶入の徳の如き蓋の上より
是ハに覆るる依りて引をきく向備告徳草の
萬事道具ハ其洲の支

ハ一

法は具ハ其洲の支
一統記能知る支は其洲の支

ハ一

茶をん茶杯茶杯杯の多洲ハ其洲の支
昔ハ其洲の支ハ其洲の支
置命を無たしもの支
母等環の支ハ其洲の支
とて遺るる其洲の支ハ其洲の支
相ハ其洲の支ハ其洲の支
ハ其洲の支ハ其洲の支
夜の中ハ其洲の支ハ其洲の支
其ハ其洲の支ハ其洲の支
時ハ其洲の支ハ其洲の支

有得著し居候はと持除は多後又乃其の是に云ふ
哉と候しと云ふも有是又回念と云ふて無記物の是に
相候云ふ由付授丹人の是云ふと云ふ

五つのはる合之是

初任彩衣は具の六つ襪も何意に倉本定除と
由誠は本を而道成云は程多れ假初も本
と勢ふ心持力多う強て五つは何解の及具理とて
正位子飾 一掛物の心法 一花入の厨物 一釜の亭子代
一茶入の茶台は具一茶入の 一瓢の茶物

○掛物花の是はを来は茶台出得て、そし適世の隠者

杯祖師の古則示等茂心持不変と觀通理を
慈心侍客事候るれ、は客為地之無物と納
花と入室と懸茶と之款風舞或は花と入心と
清浄と觀打出客事候内、花を納無物と掛
造りしと云ふ然らば是茶台後を掛せし近代
初掛物申すは後花と入室と改客の心と持候子
改申、世に候し心お能し是根本の茶湯の初より
後世の茶湯、右の候子、その多きと云ふ、
代りて一今の始終、客の友ら成茶入の法具ありて
第一小茶不親交物と云ふ、瓢は、は物と云ふ、

茶湯、説多不辨と樂まむか之を流世と此理成
不志修十套と戒心の由誠と孫務の深心動意
は具教多の内より所立と撰出らるる及歴代に徹底
は、意味深長利休は道の妙訓と傳ふる腕力る利
○上代、病ふ及等の論のこ機来と孫先一休如る乃
初より、初て圓悟禪師の墨流を裁ふ不之以後
銀鷗利休より、相傳へて尚世の世と茶湯の時經を
流傳の墨流并紫桂北流流先の墨流と應ふ事
又前より記を銀鷗宗家から成るる念の也哉と
初て利休より、應利休、宗祖の墨流の墨流成

自愛初て初高屋不無、系中より初高屋不、勅筆
祖師の墨流、孫列宗家宗祖の外、此と在筆を
不無初の由初高屋、茶湯の式止るれ、各人の在法不
各人固く坐安、若くも如何の在筆も、此の
心は身無、亦若く傳へし依之圓悟、虚堂、亦度僧
を初て、南浦、大徳、華叟、狼叟、一休等の墨流
宗家宗祖の筆流傳へ、今も受禪先銀鷗利休
の力より初

一六
一流の弟子の受傳授の成相、成り外、成相傳
の弟子の受らる

一通相傳之文

常解の茶湯は一通の儀相傳の弟子の文を刊
真の茶の文

墨跡無卷の文

是の如くは傳多く六ヶ交人解人篇を無卷と云ふは
不類傳の所定より所定と同篇の作法抄傳常の
通風杯杯はくふは後方と云ふ候も無卷の時

床の下り下り立廻り名有之幅對に幅對且幅對杯の
無卷の次方流り椅子茶流流に茶席に記之候家も暑
銀瓶の茶湯に一人守の圓が表を合別可云ふは文
銀瓶の茶の圓が表一人守の由銀瓶は守に付
減ふも今の圓が表一人守の圓が表は拾ね候も
守しに以後相傳と云茶湯の若人多くは守に圓が
表守一の姑減と云ふ候は守に今古を法の能物候
世物相傳一ツとして外の候も守に守の守は銀瓶の
茶湯に守に守に守に守に守に守に守に守に守に
守に守に守に守に守に守に守に守に守に守に守に

一開居士の号と受授富易ハ古溪和尚の系授而
利瓜居士の号と受授ハ細川之弟藤生氏卿
全將古出雲法下志子 桑山左近佐之間將監小堀遠列
片桐右列の諸公皆え遠の舊規と慕ふハ龍龍峯心
中若造之ハ院帰敬禪門と是と以て老ハ茶湯之
自學ハ冬得之空旨ニ等皮鉄然也

茶十徳

○諸神加護五臟調和睡眠消除煩惱消滅老衰
父母息災安穩天魔遠離諸人愛敬壽命長遠
臨終不乱五品蟹眼魚眼松風岸波深淵不之忘天

陰則不点湯不老不点不得其人

○茶の多六経云維摩詰經云神農食經云茶茗久飲
此是ハ人カ力悦シテ 周公爾雅檟苦茶云其飲醒
酒令人不眠云然則其源於神農氏魯周公
齊晏嬰漢揚雄司馬相如王韋曜晉劉琨張載
遠祖衲謝安在思之後皆茶飲之事記也爾來唐
少翁と歴代の法云多記茶多是ハ以てハ茶始也
夏公叔千載唐陸羽ハ茶經と撰茶君謨茶譜と
著盧仝ハ茶歌と作皮日休ハ茶具千詠宋蘇東坡
其山谷范希文此ハ隱士文人茶の詩賦等不遑備討候

○茶ハ南方嘉木也其名一曰茶二曰檟三曰葍四曰茗
 五曰筴或曰早取為茶晚取為茗上者生黨中者
 生百洲新羅下者生高麗其外乃度支表諸列茶
 上中下諸品產地建溪等類茶經詳也茶少入亦人亦
 誤也○茶水陸羽曰山水上江水中井水下云又伯魯以
 揚子江為第一惠山石泉為第二虎丘石井為第三
 丹陽寺井為第四揚州大明寺井第五松江第六
 淮水第七此外茶水最位論世々異說多
 茶鼻公風爐鑊カ△烏府ストリ△火筴ヒハシ△宗徒事ハヤ
 △湯提點ユキ△竺副師チヤウ△巾△樣杓ヒヤリ△炭槌ストリ

△瀝水囊ニツコシ△石轉運チヤウ

○箇様之具或十具十二具十五具茶器の内古有之大唐
 の原制茶飲本邦の俗と替り多分茶器は極列
 々内器世用多分及具不似る物と集る也

○陸羽茶經云美飲云不美苦命甞不美白玉盃不美
 朝入昔不羨暮入臺千羨萬羨西江水曾向竟陵城
 下來

○盧仝茶歌畧云一椀喉吻潤二椀破孤悶三椀搜枯
 腹惟有文字五千卷四椀發輕汗平生不平事盡
 向毛爪散五椀肌骨清六椀通仙靈七椀喫不得

唯覺兩腋習々清風生云々

○蔡君謨茶譜茶效去人飲真茶能止渴消食除痰止咳利水道明目益思除煩去積固不可一日無云々

○范希文鬪茶歌有鬪茶味兮輕醍醐茶香薄蘭芷之句

箇様茶事稱羨云々詩賦多之

○西天東土我於法中稱羨茶飲普佛經禪錄見云々本邦六人王五十二世嵯峨天皇幸江州林梵釋寺始喫茶其以後建仁寺榮西禪師入宋茶種取來リ

梅庵妙慧上人小與之上人之後所梅庵種之是茶種及乎梅庵妙慧上人之云々之云々在則梅庵種之是茶種茶種極盛歟亦云余列云々上從宮者下至多て是里百茶飲無謂不用茶上人云々加業之由世俗云傳亦人王五十二世後宇田法皇我大應國師の入室園法次而國師自糾茶獻法皇云々外上云々法皇云々師茶種と推乃云々物云々宇田の茶の類云々何云々の時代云々事一雖重上より云々義云々云々葉時云々被ふ

宇田川や川奈茶成梅ハ

はるる此句い云々云々云々云々

ハ教何の書ハ兵ノ介危角ハ教字ハの茶ハ上古より
ありと云ふ也但中漢則強して明意より再世宗位布
生多武仲来不洋茶邦法ハ茶上中下ノ品位如て文
乾中宗ハの茶第一と稱せり然ハ花相ハ初て及花と宗
武衛ハ朝日 京極ハ祝 奥山 山名ハ字文字
已上ハテ各簡と云

之後上林被加之七種茶と云 勿海茶後區くる色
茶の秘ハ昔と云又ハ字作て茶と稱す之月の花ハ入り
九下須自の由也来ハ傳也ハ初揚ハ初昔次と傳者
と云或ハ何の昔と云昔の字ハ一りと云ハ由字ハ人

此ハ名ヲ守也此外種々諸有
茶水の美悪の品位ハ度不推し 初て被撰字ハ川ハ
中流第一と稱して之ハ初の中不茶ハ屏所ハ今と云し
性昔 茲京後醍醐而初の的百種茶の字興ハの事
古書不凡と云り之ハ比京極道無公也初初初茶と云
香成茶と云ふ又ハ古書不記といへん茶念の事蹟不詳
自是初中載の後鹿花初云異ノ人の教もよく茶と云
法式と稱して判せしむと播定善光慈尊法位ハ
法系相續て代りけりと弄給中就今不とて世不傳
真の初ハ式法ハ南の殿よりハ初来の也也初初初代より

今ふむてそ術受用は記の茶場と云ハ相伝あり然不
其相ハ前記茶の初より是と稱す餘ハ茶場ハ入文
とていふししは伝記を云く

相阿弥傳

真相阿弥ハ未詳ニ性氏仕テ東心之源云為同明也
所謂同明當の信号也源云老ク隱訓不東心別業以
常會為梁之茶盧の標模名畫妙畫於傳古陳秘器
寶蓋於座右の日影會相阿弥以塔を受命而常
官庫の寶物且教人秘受の畫具皆以相阿弥證
定價のそ妙時人嗜好多皆以相阿弥為師模至

後世之遠傳く而不絶也蓋教多は其の宗祖ハ且干
丹青水畫與信雪舟及以梁宗我狩能の傳齊之者

真相阿弥傳

真相阿弥云東心源久の同明也與阿弥同明叙府ノ
寶物大凡世之蓋好多其者真相皆以真相二子之報
為證焉又畫與真相阿弥齊名

陈光傳

陈光之為南宗傳菴扁曰陈光以善教齊得名也
陈光只斯一錫或終而獨自喫或煎茶而會干
宿友以和款一首為戲矣時人每求文光の茶席之

海人以千金市焉

紹鴻傳

或姓紹鴻初名仲村泉列場人姓源氏故田信光之裔也
祖父仲清死時應仁之役父信久孤而無依賴也
周流四方止住于泉南鴻有志于教道後陪于三條
右府志十四年右府養就繼衣之列任因列守後房度
于泉南以嗜茶為業遂得新名之及後登祀崇授
後于古岳禪師名一閑居士自號大黑庵
人尾庵一閑紹鴻居士於元乙卯年十月十九日
逝壽九十也泉列場南宗寺總印塔之石塔者之

千宗易傳

宗及

津田号天信天王寺屋宗達嗣子江月
和尙又後三子石擢法眼參看屋國師

宗又

今升 紹鴻之塔擢大藏卿法印
秩之千石在古溪和尙

宗易

利休居士壽六十八
秩之千石在古溪和尙

信長公

宗温平香書作

秀吉公

蒲生彈飛守氏卿

細川三齋

法諱宗立正保二年臘月二日肥列
於八代卒壽八十二矣古溪和尙

瀨田掃部

牧野兵部

古田織部正

道安

小川左馬助

金森出雲守

桑山左近

堂藤將監

天方備前守

大父保相模守

大野修理亮

雲龍院御門跡

大久保藤十郎

妙法院御門跡

保科肥後守正之

清水道閑

片桐石見守

桑山内匠

少菴宗淳居士

南都宗珠

藤田宗理

栗田善法

尊行院

右珠光習

北向道陳

武野宗尾

藤村宗源

片桐貞昌家未

利休後嘉尼名宗音別種子慶長十九甲寅九月初七日
逝大德寺聚光院總印塔石塔有二傳授無之

宗悟

竹藏屋紹滴

石黒道提

大富善好

西福寺

佐久間右衛門尉

辻玄哉

棕宗理

譽田屋宗定京千本道悅

津田宗達

三好實休

山本助五郎

瀧新右衛門

宗尾塔

山上宗二

道阿弥

安齋

常德

右紹鷗習

織田有樂

荒木攝津

有馬古玄蕃

芝山監物

高山右近

山岡宗無

五代屋宗貴

重宗甫

紙屋宗旦

右利休習

千宗且

宗淳習

千宗珠

千宗左

千宗室

右宗且習

佐久間將監

諱直勝法名山隱
宗可居士之守松

小堀遠江

諱政一法名有宗
南居士之孤蓬

千宗易名泉南人生于田中氏其先仕于室町家而
 勤回明役以名曰千阿弥子孫以千為稱以教參道
 弘及於一時三止帝行幸于關白秀吉第此時秀吉
 擇長教易者教人養昇綱任然易獨辭而不受
 命還請稱居士秀吉命大德古谿无授利久居士
 號又自名拋笠易修營大德之山而營作己之像
 安於閣上秀吉惡其不遜而大怒以加殺戮秀吉
 怒猶未解磔其像於一條屋檜
 不審庵利休宗易居士三十九年辛卯二月廿日於泉列
 場卒壽六十八 錯蒔田淡路守大德開山國師印塔後慶光院
 惣印塔泉列場南榮寺總印塔之所 右塔有之

賀利休居士號

古溪

泉之極釜齊宗易通吊二十年飽參之徒也
禪餘平常以茶事為務頃辱特降綸命贈
利休居士之號聞斯盛舉不勝歡抃贊一偈以抒
賀忱云

一麗老神通作家飢來喫飯遇茶之心空及第
等閑看風露新香隱逸花

茶湯傳授之系圖

珠光南都稱名寺僧壽八十塔有真珠菴

引拙南都人壽七十

此兩公古田織部

織田常真有樂公習

淺野季

三亦公習說有不知其實

金森宗和

可重公習或道安習之說有不知其實

越伊豫

遠州習

安加左近

永井信齋

本阿弥持德齋

此三人不知其師傳

右之數十輩從珠紹鴻時代到近世
各有數奇之名故記焉

右之百ヶ條注解ハ帳簿和尙の行を記す亦る會
丈之百ヶ條を古と判書として互相に守貞島
口傳書あるを志す之を以て又簡約功字邊
小之條成毎と記すは行を記す帳簿を記す
此に記すは多分記すは和尙宗小の是れ一
之編次の意也あはれ宗小の是れ一
と記すは

言の保庚史の考

醉翁談

凡人其不亦下何事をも友とて居る此書成
場補して是と行記をも亦乃爾宗小の考
之條宗小の考とて是れ一之考也
初宗小の考も初とて是れ一之考也
宗小の考も初とて是れ一之考也
之考も初とて是れ一之考也
味之可也宗小の考も初とて是れ一之考也
宗小の考も初とて是れ一之考也

佛教東京飯倉町
出版
森江佐七
書林五丁目四十四番地

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in dark ink on aged, yellowed paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language or dialect used.

